

フィンスイミング競技の基本ルール (プール競技)

日本水中スポーツ連盟
規則公認委員会(監修)

本資料の位置付け

- 本資料は日本国内での競技普及を目的として、世界水中連盟 (CMAS <http://www.cmas.org/>) のフィンスイミングのルールの要点を抜粋し翻訳したものとなります。
 - ※2016 finswimming rules v2016-1
- CMASルールは予告なく改定されることがあり、本資料とかい離が生じる可能性があります。
- そのため国内独自の競技 (ビーフィン) は除外しております
- 国内大会においては、本ルール以外にも各大会ごとに適用される申し合わせ事項があります。大会出場時は事前にそちらも合わせて確認の上、参加してください。
- なお、本資料でビーフィンという記載は日本国内の大会でCMASビーフィンと呼んでいる種目を指します。

年齢区分と種目・距離について

■年齢区分と参加可能な競技について

呼称(国際ルール)	国内呼称	年齢	参加可能種目について
シニア	シニア	18歳以上	全て可能
ジュニア	ユース	16～17歳	全て可能
	ジュニア	14～15歳	全て可能
	ジュニア	12～13歳	アップニアは25Mに限る
マスターズ	-	29～34歳、以下10歳毎	全て可能
-	マスターズ	29～34歳、以下5歳毎	全て可能

※年齢は当年の12月末日の満年齢とする

■各種目毎の距離について(長水路)

種目	距離
アップニア	50M
サーフィス	50、100、200、400、800、1500M
イマージョン	100、400M
CMASビーフィン	50、100、200M

種目毎の泳法

サーフィス(SF)	<p>泳法は自由である。 潜水はスタートからと折返し後の15mの区間が認められる。 競技者は15m区間を越える前にスノーケルまたは頭部が水面上に出なければならない。 潜水が認められている15m区間を除き、競技者の身体の一部もしくは器具の一部が常に水面上に出ていなければならない。 すべての距離において、出場する全ての競技者が常時呼吸できるよう必ずスノーケルを使用しなければならない。</p>
アプニア(AP)	<p>アプニア競技は、室内・野外のプールに限り開催される。 スノーケルの使用は認められない。 泳法は自由である。 競技者の顔は全距離を泳ぐ間、水中になければならない。 自動審判計時装置が使用される場合、競技者はタッチ板にタッチしなければならない。 25mプールにおいて50mアプニアが行われる場合、競技者はターンの時に身体もしくはフィンの一部で壁に触れなければならない。</p>
イマージョン(IM)	<p>圧縮空気の呼吸器具を使用した水中競技において泳法は自由である。 呼吸器具の持ち方は自由である。 競技中において呼吸器具を交換及び、放棄してはならない。 競技者の顔は全距離を泳ぐ間、水中になければならない。 自動審判計時装置が使用される場合、競技者はタッチ板にタッチしなければならない。 呼吸器具はいかなる場合においても、プールの壁面及びタッチ板に触れてはならない。違反した場合は失格とする。</p>
ビーフィン(BF)	<p>泳法はうつぶせの状態のスノーケルを使用したクロール泳法とする。 ドルフィンキックは、スタートからと折返し後の15mまでの潜水泳法時とする。 潜水はスタートからと折返し後の15mの区間が認められる。 競技者は15m区間を越える前にスノーケルまたは頭部が水面上に出なければならない。 スタートに際し、競技者のフィンはスタート台の正面に対して平行の位置になるように両足を揃えて立たなければならない。</p>

種目毎の使用可能な器具と制限

<p>サーフィス (SF) アプニア (AP) イマージョン (IM)</p>	<p>左記の競技で使用できるフィンとは以下の通り</p> <p><モノフィン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材に関する制限はない。モノフィンは浮力のあるものでもよい。 ・モノフィンの大きさは、長さ760mm・幅760mm・高さ(厚さ)150mm以内のもの。 ・幅はブレードの左端から右端で計測する。 ・長さはAからB地点で計測する。(図1を参照) ・高さは150mmを超過しないこと。 ・ブーツ部分は泳者に余計な補助を与える様な構造であってはならない。ブーツ部分にスプリング等のいかなる装置をも組み込んではならない。 ・ブーツ部分はスタート台において泳者の安定性を保証しなければならない。 ・フィンやモノフィンの下のボルトは十分な保護で厚く覆われていなければ使用を禁止されている。 <p><ビーフィン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーフィンは材質や大きさに関し制限はない
<p>ビーフィン (BF)</p>	<p>前提として、CMASによる認可が必要である ※詳細はCMASのHPを参照の事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィンの効率を上げるために結節や別の材料を付けてはならない。 ・ビーフィンを踵に固定するためだけにのみ、三方向(フィンのソール、踵前面と背面)の固定ラバーを使用することができる。(図2) ・この器具は工業生産されたもので市場で容易に入手できること。ネオプレーン製のシューズ、ブーツは使用禁止。つま先先端のみのネオプレーンやプラスチックは使用可能(図3)。
<p>全種目共通</p>	<p>使用が認められているその他の器具は水中で目を保護し、視界を確保することのみを目的としたゴーグルまたはマスクと呼吸専用のスノーケル。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スノーケルはフェアリング(整流用の覆い)を付けてはならない。 ・スノーケルは円筒部の内径は15mm~23mm。長さは430mm~480mm。 ・スノーケル上部(先端部)の形状は斜めや丸型切断でもよいが最も長くなる部分で計測される。長さは筒の内側で計測されなければならない。(図4) ・スノーケルに関しては器具監査時のシール以外一切のシールを禁止とする。 ・ゴーグル、マスク及びスノーケルは、上記の機能以外の役目を果たす付属品を装着してはならない。 ・スノーケル固定器具が当たる腕の内側の部分を保護することは禁止とする。このルールにはいかなる例外も認められない。

図1

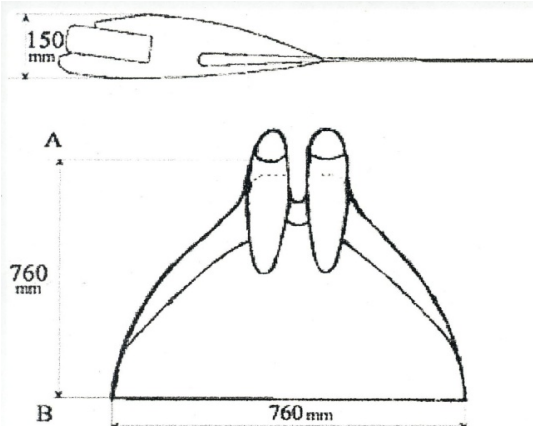


図2



図3

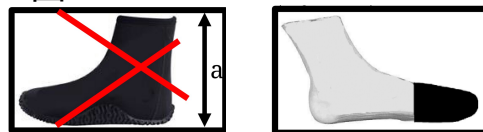
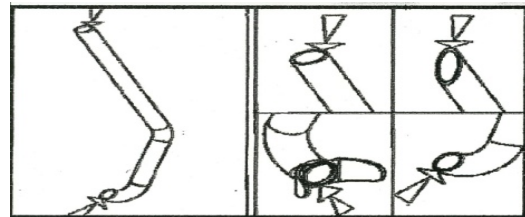


図4



使用可能な水着について

スイミングウェアで競技に臨まなければならない。

- ・男性はショートトランクス(図6)、女性はワンピース水着(図7)、もしくはツーピース水着(図8)。
- ・競技用水着(全身もしくはロングスパッツ)-(図9)、ハーフパンツ(図10)はCMASによる承認ロゴのついたものを使用することができる。
- ・水着は泳者の自然な浮力に影響してはならない。
- ・水着の着用は1枚とする。
- ・スイミングキャップの使用は1枚もしくは2枚認められている。

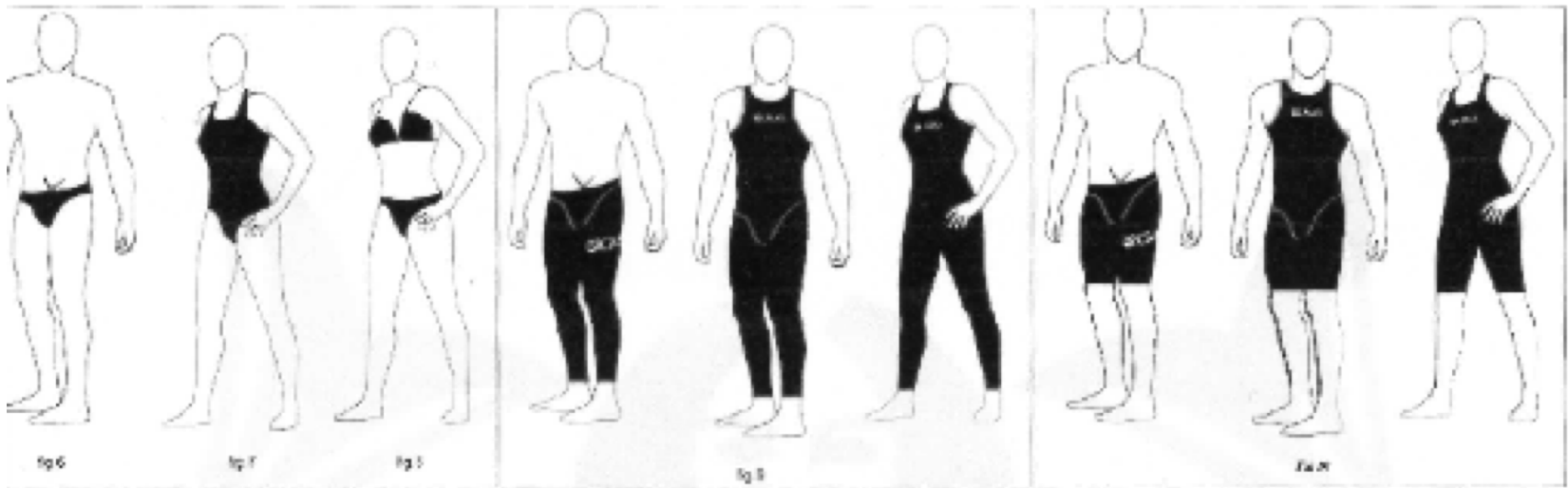


図 6 図 7 図 8

図 9

図 10

図 6~図 8 は使用可能

図 9・図 10 は CMAS の承認を得た水着のみが使用可能

招集及びスタート手順

招集	<ul style="list-style-type: none">・未承認の器具を用いた競技者はスタート台に立つことはできない。競技終了後に不適正な器具使用が判明した場合、競技者は失格となる。・泳者は招集所にてキャップとゴーグルを装着しなければならない。プールサイドではビーフィンまたはモノフィン装着のみとするためである。・コーチや同伴者はプールサイドを歩き回することは許可されていない。競技者に確保されているエリアに立ち入りできないようにするためである。・審判長がプールのスタート場所に向かうべきと決定した組に遅れて泳者が招集所に到着した場合その泳者はプールに近づくことは許されずスタートすることはできない。
スタート手順	<ul style="list-style-type: none">・スタートの飛び込みはスタート台から行わなければならない。・各競技の開始において、審判長は笛を短く連続して吹くことにより、泳者に水着以外の衣服を脱ぎビーフィンやモノフィンを装着することを合図しなければならない。その後、泳者は最長1分半を使って準備をする。プールの両側に大きな時計を設置して、泳者が容易に視認できるようにする。・審判長の長い笛で泳者はスタート台に上がる。泳者はその前にスタート台に上がってもよい。・出発合図の号令「take your marks(英) もしくは à vos marques (仏) , a sus marcas (西)」(用意)によって泳者は速やかにスタートの姿勢をとり、静止する。両手の位置は自由。全ての泳者が静止したら出発合図員はスタートの合図をする。・スタートの合図前に飛び込んだり、動いた泳者は失格となる。失格を通告する前にスタートの合図が出された場合は、競技は続行され競技終了後にその泳者は失格となる

プール競技の一般規則

一般規則

- ・800、1500M競技では、審判員は泳者に最後の残りの距離(100m)を20cm×30cm以上の大きさの明るい色の板を水中に差入れ、知らせなければならない。技術的な理由によりプールのスタート地点でできない場合は、折返し側の折返審判員が残り150m時点で行わなければならない。
- ・他のレーンを横切ったり、他の泳者の妨げとなった泳者は失格となる。
- ・全ての競技において、ターンをする際は、泳者は身体もしくは器材の一部でプールの端の壁に物理的に接触しなければならない。(タンクタッチは不可)
- ・リレーの引き継ぎに置いて、到着する泳者がプールの壁に触れる前にフィンがスタート台から離れてしまった場合は、そのチームは失格となる。出発する泳者が過ちに気づいて壁に戻ってから再度出発する場合は失格にはならない。スタート台に上がる必要はない。
- ・リレーの競技では、泳者の名前と泳ぐ順番は、競技の開始までに記録室に提出される一覧の通りでなければならない。決定した泳順を変更することは失格となる。
- ・リレーの自分の役割を終えると、審判員が退水の指示をするまでは泳者は自分のレーンに留まらなければならない。(タッチ板から約1m離れた所)
- ・自分のリレーを泳ぎ終わった泳者が、リレー競技が終了する(最後のチームが到着する)前に入水することは禁じられている。
- ・タッチ板を超えての退水は禁じられている。このように退水した泳者は失格となる。
- ・競技中(SF, AP, IM, BF)に器材、フィン、スノーケル、呼吸器の一部でも放棄した泳者はゴールした時点で失格となる。